平成26年度資源評価票（ダイジェスト版）

ムロアジ類

学名　*Decapterus* spp.

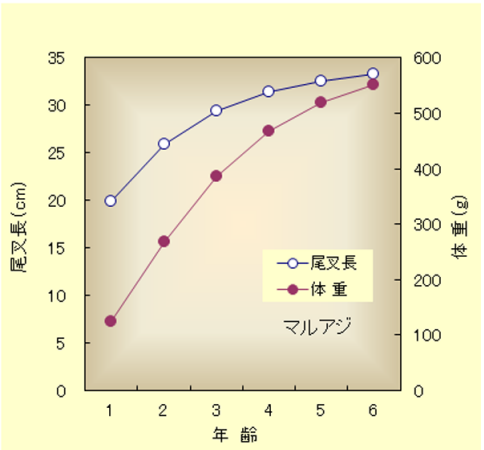
系群名（海域）　（東シナ海）

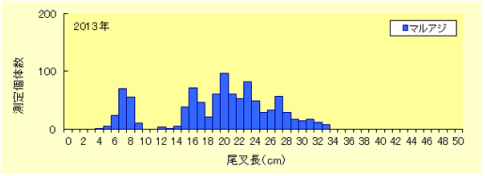
担当水研　西海区水産研究所

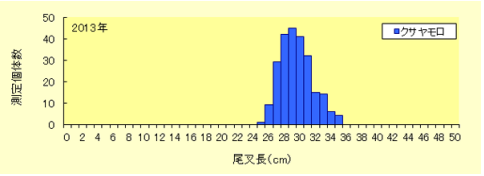
写真はマルアジ

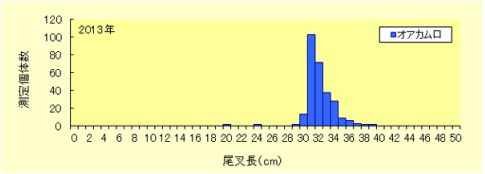
生物学的特性

寿命:	最高齢はマルアジで6 歳、クサヤモロで8 歳、モロで5 歳、オアカムロで7 歳、アカアジで10 歳
成熟開始年齢:	マルアジ、モロ、クサヤモロでは2歳
産卵期・産卵場:	春～夏季に産卵する魚種が多い、東シナ海の広い範囲で産卵するが魚種により異なる
索餌期・索餌場:	不明
食性:	詳細は明らかではないが、マルアジでは稚魚期にカイアシ類や枝角類を、成魚期にカイアシ類、オキアミ類、小型魚類を捕食していると考えられる
捕食者:	大型魚類や哺乳類







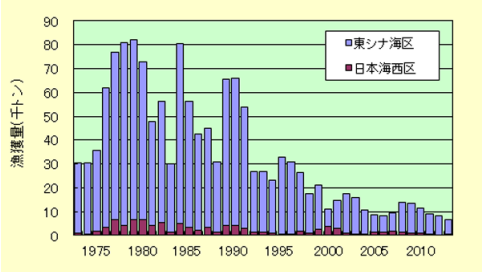


漁業の特徴

東シナ海区で多く漁獲されるムロアジ類は、マルアジ、ムロアジ、モロ、クサヤモロ、オアカムロ、アカアジの6種である。大中型まき網および中・小型まき網により漁獲され、2013年は大中型まき網が漁獲量全体の約6割を占め、残りの多くは中・小型まき網によるものであった。この海域におけるムロアジ類の漁獲量を県別でみると、長崎県と鹿児島県が多い。中国などの外国漁船もムロアジ類を多く漁獲しているとみられる。

漁獲の動向

東シナ海区の漁獲量は1978年の7.7万トンをピークに一度減少したものの、1984年に7.5万トンを超える漁獲量があった。以後減少を続け、2000年には1万トンを下回った。2013年は0.64万トンであった。日本海西区の漁獲量は近年1,000トン前後で推移しており、2013年は399トンであった。日本海北区の2013年の漁獲量は23トンであった。2013年の全体の漁獲量は0.68万トンであった。

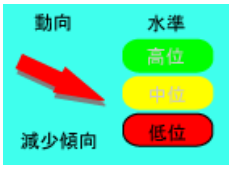


資源評価法

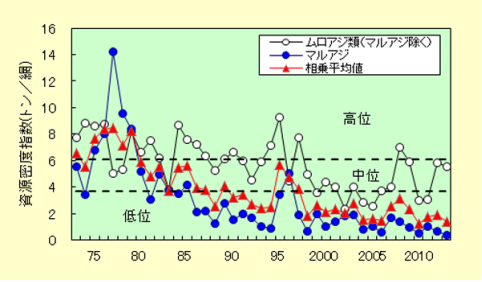
単一の漁業種類としてはムロアジ類漁獲の大きな割合を占める大中型まき網漁業の資源密度指数から資源水準と動向を判断した。大中型まき網漁業ではマルアジとその他のムロアジ類に分けて漁獲情報の収集がされているため、マ

ルアジおよびムロアジ類の資源密度指数の相乗平均値を資源量の指標値とした。資源の水準は指標値の最大値（8.48）と最小値（1.25）の間を3等分して低位・中位・高位とした。

資源状態



大中型まき網漁業のマルアジの資源密度指数は増減を繰り返しながら長期的には減少傾向で推移しており、近年では低い水準にある。マルアジを除くムロアジ類の資源密度指数は1990年代前半までは増減を繰り返しながら推移してきたが、1990年代後半に減少し、2000年代前半にかけて低い水準となった。その後、2006～2008年にかけて増加傾向が認められたが、2009・2010年には再び減少した。2013年は2012年より減少した。マルアジおよびムロアジ類（マルアジ除く）の資源密度指数の相乗平均値は過去約40年間でみると低い水準にあり、最近5年間（2009～2013年）では減少傾向で推移している。



管理方策

ムロアジ類は複数の魚種が含まれるため、本来ならば、種別にABClimitを設定すべきだが、現状では魚種別の漁獲量も明らかでなく、各魚種の資源量の変動を追うのは困難である。また、外国漁船による漁獲状況も不明な点が多い。そのため、現状では、我が国におけるムロアジ類としての資源量指標値に合わせて漁獲することが現実的である。全体としてみると、資源量指標値の水準は低位、動向は減少傾向を示しているため、漁獲圧は現状の漁獲圧より抑えることが望ましい。

	2015年ABC	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	48百トン	0.8・C2013・0.88	－	－
ABCtarget	38百トン	0.8・0.8・C2013・0.880	－	－

- ABCは、東シナ海区と日本海区の合計である
- ABC算定規則　2－1）によって、ABCはABClimit＝δ_1・Ct・γ_1、ABCtarget＝ABClimit・α（α=0.8）で計算した
- γ_1は、γ_1＝1＋k（b/I）で計算し、kは係数（標準値の1.0）、bとIは資源量指標値 の傾きと平均値（直近3年間）である

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位で、動向は減少である
- ムロアジ類には複数種（6種）が含まれるが、マルアジを除く魚種別の資源量指標値は不明である

管理方策のまとめ

- マルアジを除く魚種別の漁獲量が把握できないので、現状ではムロアジ類としての資源量指標値に合わせて漁獲することが現実的である
- 東シナ海における資源状態を正確に把握するため、関係国漁獲量等の情報提供が必要である

執筆者：安田十也・依田真里

資源評価は毎年更新されます。